

医学部保健学科

学位プログラム： 看護学

授与する学位： 学士（看護学）

教育目標

大阪大学および医学部保健学科の教育目標のもと、学位プログラム「看護学」では、高度な専門性を持ち、看護学に関する深い学識と先進医療のあらゆる分野に対応できる力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性を備え、医療の国際展開を推進し、教育・研究・実践の場でリーダーシップを発揮して、看護学の発展に寄与する次のような能力を備えた人材育成を目指しています。

○高度な専門性と深い学識

- ・看護学の知識と技術を、演習を含む主体的学習を通して十分に修得させます。
- ・医学部附属病院等での実習を通して、社会・地域医療に貢献しつつ、高度先進医療・未来医療を発展させ得る高度な専門性を具体的に理解させます。

○教養

- ・高い倫理観と豊かな人間性を養うことを目指します。
- ・看護学を探究する学習を通して、人間を十分に知り、健康と環境の関係を理解し、対人コミュニケーションを適切にとるための教養を高めさせます。

○国際性

- ・語学力を基盤とし、看護学の国際展開に関わる多様な課題について考えることを通して、保健医療の課題をグローバルな視点で捉えられるようにさせます。

○デザイン力

- ・看護学の視点で豊かにデザインできる力をつけ、保健医療機関の看護の質を高め、行政や政府関連機関で保健医療施策を講じ、教育・研究機関においても将来先進的な活躍をする人材を育成することを目指します。

看護学の専門性に関して確固たる自信を持ち、国内外の教育・研究・実践の場で、専門性と語学力を基盤としたリーダーシップを発揮し、「人」に対して温かい目を持つ医療人を育成します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学および医学部保健学科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「看護学」では、国内外の教育・研究・実践の場で、専門性と語学力を基盤としたリーダーシップを発揮し、看護学の専門性に関して確固たる自信を持ち、人に対して温かい目を持つ医療人を育成するという教育目標に照らして、以下の目標を達成した学生に学士（看護学）を授与します。

○高度な専門性と深い学識

- ・看護学で求められる知識・技術を有している。
- ・保健医療分野の課題解決に向けて、修得した知識・技術を活用できる。

○教養

- ・高い倫理観を持ち、豊かな人間性を身につけている。
- ・健康と環境の関係を複眼的・俯瞰的に思考し、人類の文化・社会・自然に関連付けて他者に説明できる。

○国際性

- ・異なる言語・文化背景を考慮した、看護および保健医療のあり方について検討し、提供できる。
- ・専門知識を活用しながら、言語・文化の相違を超えて交流し、看護および保健医療の課題をグローバルな視点で総合的に評価できる。

○デザインカ

- ・看護学と保健医療分野における新たな課題を発見し、解決の道筋を構想できる。
- ・看護学と保健医療分野のさまざまなニーズに対応するために、専門的知識と技能を活かしながら、様々な分野の人と協働できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学および医学部保健学科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「看護学」では、教養教育、専門教育、および国際性の涵養に関する授業科目を体系的に編成しています。講義、演習、実験・実習を効果的に組み合わせることで、学生が幅広い知識と教養、豊かな人間性、高い倫理観を身につけながら、看護学の理解を深め、理論と実践を科学的に追究し、看護学の研究を発展させます。また、医療専門資格につながる授業を展開し、各科目の特性に応じた評価方法により、学修成果を適正に評価します。

<教育課程編成の考え方>

学位プログラム「看護学」では、高度な専門教育と豊かな教養教育を、車の両輪のように展開させることで、幅広い知識と教養、豊かな人間性、高い倫理観を身につけます。専門教育では、看護学の理論と実践を科学的に追究し、高度の専門知識・技術を総合的に教育・研究します。これらを通して、深い教養を基に、国際性とデザイン力を習得し、看護学と保健医療の理解を深め、看護専門職としての高度で広範な知識と柔軟な対応力のある人材の養成を目標としています。カリキュラム全体を通して、医療専門職としてふさわしい使命感と倫理観を自覚した医療のプロフェッショナルとして、リーダーシップを発揮し、看護を実践するとともに、看護の質の向上、看護学の発展に寄与し、それに対する責任のもてる人材を育成します。

<学修内容及び学修方法>

高度な専門性と深い学識と教養に関しては、1年次からの専門教育科目や教養教育系科目などにより、人類の文化・社会・自然に関する学習を通して、「人」を総合的に理解するための基盤を形成します。そして、3年次からは臨地実習などにより、適切なケアの在り方を自ら考え、提案し、実践する能力を段階的に養います。さらに卒業研究では、看護の専門性をふまえた研究課題に各自が取り組むことを通して、看護学と保健医療分野における新たな課題を発見し、解決の道筋を構想していきます。

国際性とデザイン力に関しては、専門教育・教養教育と並行しつつ、語学力とグローバルな視点を涵養する教育を通して、異なる言語や文化背景への理解を深め、看護学および保健医療のあり方についての検討を重ねていきます。また、外国人留学生との交流機会は、国際的視野が広がることにつながっています。

看護学は、医療の知識が基盤となる実践の科学であるため、学内での座学を中心とする講義科目や、学生同士が試行錯誤し、工夫を重ねつつ学ぶ演習科目に加え、実践の場での学習が必須となる実習科目を設けています。実際の医療の場で、様々な医療専門職が、それぞれの専門性を活かしてチームとして医療を提供し、医療の発展に貢献する姿を知ることによって、専門的知識と技能の重要性を再認識し、さらなる学修への動機づけを高めます。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、筆記試験、課題レポート、演習への参加状況、実習前後の課題達成と実習中の討議内容等で授業形式をふまえてシラバスの学習目標に沿って適正に評価します。また、学修したすべての知識を統合して新たな看護学の課題に取り組む特別研究は、論文として評価し、研究成果はプレゼンテーションによって共有します。

教育課程全体を通し、医療に携わるものとしての高い倫理観を持ち、看護学の発展に寄与して人々の幸せに貢献するという使命感を自覚した、真の医療人を育成します。

